

## デンタルケア

あるデータによれば、2歳以上の犬の80%以上に歯周病もしくは歯周病のサインがみられるとされています。今では歯周病は、口の病気だけでなく全身の病気に悪影響を及ぼすことがわかっていますので、犬の歯周病予防は健康を維持する上で欠かせないものとなっています。

特に近年、「歯石とり」と「歯周病予防」が混同されているように思います。特に全身麻酔をかけないで歯石を除去する「無麻酔スケーリング」「無麻酔歯石とり」といった処置を「歯周病治療」と勘違いして、その結果トラブルとなるケースが増えて問題になっています。そのようなトラブルに巻き込まれないためにも、動物病院での定期的な歯科検査、歯科処置をしっかり受けること、またペットサロンでも動物病院としっかり連携しているところで相談するようにしましょう。

## 環境・睡眠

最近の日本で飼育されているペットは、そのほとんどが室内で暮らしています。しかし、本来は外で暮らしてきた動物なので、人間の生活に合わせた室内飼育の場合、知らない間にペットにストレスをかけていることもあります。犬や猫に負担をかけないためにも少しでも動物に寄り添った生活を調えることが重要です。

例えば、犬は本能的に屋根付きの比較的狭い場所で休む性質があります。したがってお家の中でもそのようなスペースを作って、安心して休める環境を整えてあげましょう。また、猫はいろいろな場所でお水を飲む性質がありますので、複数の場所でお水を飲めるようにしてあげるといった工夫もお勧めです。

## 社会との関わり

犬が人間社会の中で生活するた

めには、どうしても人間社会に合わせなければなりません。そのためには、いわゆるしつけトレーニングが必須です。そこがうまくいかないと、常に不安を抱えたまま日常生活を送るといったストレスがかかるようになります。

例えば、お家でピンポンが鳴ると吠えたりする場合、実は不安から吠えてしまっていることが多いのですが、ほとんどのご家庭では、ただむやみやたらに「静かにしなさい!」と怒ってしまいます。しかしこれでは解決どころか犬の不安を大きくしてしまうリスクが高く、結果的により強く吠えるようになってしまいます。

また、猫のトレーニングはまだまだ研究中のところも多いですが、やはり犬と同じようにある程度は必要になります。

動物の心身の健康のためにも社会化トレーニングを積極的に取り入れてあげてください。

## 人との関わり

最近の研究では、犬は人の感情を読み取ることができ、さらには同調することもあることがわかってきました。つまり、飼い主の方がストレスを抱えていると、それが犬自体のストレスにもなってしまいます。犬が元気に暮らすためには、飼い主の方ご自身も快適に過ごすことが重要なので、筆者の動物病院では、動物の病気を治療するためにも、飼い主の方に寄り添うことも心がけています。

今回ご紹介した内容は、まだまだ予防医療が未発達な獣医療の中では、一般的ではない考え方もあるかもしれませんが、病気というのは日常生活からの赤信号だと考えた場合、やはり普段の生活に注意を向けてあげることが、最も大切な予防方法だと思います。

一度に全てのことを実践するのは大変かもしれませんが、少しずつ、あなたに無理のない範囲で取り組めるよう、本誌で詳しい内容をお伝えしていきたいと思えます。